

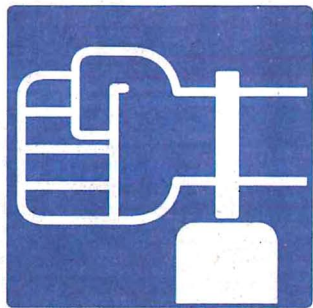
岡山市消防局 川崎医療福大と共同開発

案内マーク優秀賞

岡山市消防局が川崎医療福祉大（倉敷市松島）と共同で開発した災害時の避難誘導などに使う案内マークが、総務省消防庁の消防防災科学技術賞で優秀賞を受賞した。消防署員の火災現場での経験を基に、シンプルな図柄で意図を伝える「ピクトグラム」の技法を採用したアイデアが評価された。29日に東京で表彰式がある。（山内悠記子）

タグをつける

Put on tag.



トリアージのマーク

総務省の科学技術賞

NBC（核、生物、化学）災害をはじめ多数の傷病者が想定されるケースに対応した案内マークで、避難誘導用の「歩いてこちらへ」▽有害物質に汚染された衣服の処分を促す

避難誘導などのマークを掲げる発案者の渡辺さん



シンプルな図柄評価

「服を袋へ」▽傷病の程度によって治療の優先を決めるトリアージを示す「タグをつける」の3種類。青地に白で誘導する人や袋に入った服などを描いている。

消防防災科学技術賞の開発・改良部門に応募があった全国44件の中で、優秀賞は計5件。子どもや外国人らにも瞬時に情報を分かりやすく伝えられるピクトグラムの斬新さが認められた。

発案したのは岡山市北消防署の特別高度救助隊員渡辺敏規さん(34)。以前、岡山市内のマンション火災で耳の不自由な人を誘導しようとした際に伝わらず、ヘルメットの「岡山市消防局」の文字を示して救助した経験から着想した。

川崎医療福祉大医療福祉デザイン学科の学生5人が制作し、外国人の意見も参考に図柄の大きさや配色など試行錯誤を重ねて完成させた。デザインが採用された4年難波咲希さん(22)は「落ち着いて行動できるようリラック効果のある青色にするなど工夫した。全国的に評価されてうれしい」と言う。

岡山市消防局はすでに訓練で活用しており、県外でも導入を検討している消防があるという。今後、他のデザインも作る予定で、渡辺さんは「大規模災害の際に安全・安心を確保する手段として広がれば」と願っている。

ズーム

ピクトグラム 国内では東京五輪(1964年)の際、外国人をもてなす手段として、美術評論家・勝見勝氏らが考案して広がった。エスカレーターや救

護所、トイレなど日本工業規格(JIS)のピクトグラムは現在152種類あり、非常口のマークは国際標準規格になっている。